

Fujizack^{フジザック} 通信 12



これは、ふじざくら支援学校から保護者の方に情報提供する不定期通信です。

【第12号】令和3年5月28日 文責：校長

先日、校長室に訪問者がありました。とは言っても、部屋には入らなかったのです。校長室の窓の外を駆け抜けたのは、リスでした。モコモコした尻尾を揺らしながら忙しそうに近くの木に登っていき、すぐに姿が見えなくなりました。富士の麓の自然の豊かさを再認識すると共に、とてもほっこりした朝の一時でした。

このところの陽気で山頂の残雪が少なくなり、富士山は夏の装いに向かっていきます。四季折々に美しい富士山ですが、1707年の宝永噴火の後、300年以上噴火活動を起こさずにエネルギーを蓄えています。

3月に、【富士山ハザードマップ】が改定されました。これまでの富士山噴火に関する研究等をもとに、令和3年度版の【富士山ハザードマップ】として公表されました。皆さんの居住地域における富士山噴火の想定は、いかがでしょうか。いざという時のために、必ず事前に確認しておく必要があります。

本校では、自然災害対策講習会を設定し、隔年で富士山噴火について学んでいます。災害等発生時における児童生徒の安全確保のため、全教職員が知識や技術の向上に努めているところです。



富士山噴火の問題点

- 山頂からとは限らず、どこから噴火するのかわからない。
- 爆発するような噴火か、溶岩流による噴火かわからない。
- 噴火を予知できても、数時間後に噴火が始まるかもしれない。

山梨県富士山科学研究所 吉本充宏氏の講演資料を参考

美しく雄大な姿を見せている富士山ですが、まぎれもなく活火山であり、いつ噴火するのかわかりません。私たちは、「過剰に恐れるのではなく、火山の特性をよく理解して正しく恐れること」「常に活火山であることを意識すること」が重要です。そして、実際に噴火が起こった際には、「正しい情報を得て、正しい判断をし、迅速に行動をすること」が、危険を回避するポイントです。富士山噴火に限らず、災害が発生したときの心構えとして、氾濫するネット上のフェイクニュースなどに惑わされず、正確な情報収集が基本になりますね。

さて、過日の「引き渡し訓練」においては、御協力ありがとうございました。実際の自然災害発生時には、今回のように緊急連絡をさせていただきます。しかし、道路の被災状況や大規模非難による交通渋滞など、訓練と大きく異なる状況が予想されます。それらのことを想定した引き取り方法等を改めて検討していただき、災害等発生時には安全で迅速な対応をお願いします。

先日、校長室に訪問者がありました。「こ~ちょ~せんせ~」と言いながら校長室に駆け込んできたのは、小学部2年生の子供たちでした。ニコニコしながら、嬉しそうにソファーに寝転がったり、飛び跳ねたりしてしばらく遊んでいきました。子供たちのまっすぐで光り輝くエネルギーを徐々に味わいながら、彼らの表情や仕草に癒やされたり元気をもらったり…。顔の緩みがしばらく戻らなかった午後の一時でした。